

人、自然、科学を結ぶ

学研都市精華町

精華町第4次総合計画



概要版

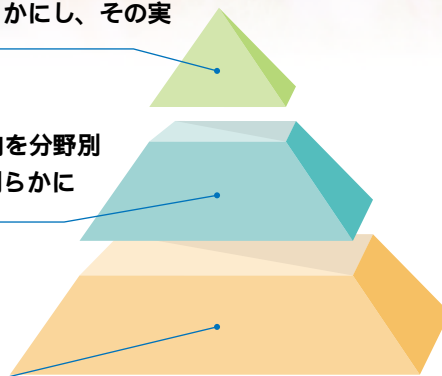
1. 総合計画とは

総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画から構成されます。

「基本構想」本町の現状とこれまでのまちづくりを踏まえ、住民の視点に立って、将来のまちの姿など、まちづくりの基本目標を明らかにし、その実現のための基本的な方向性を示します。

「基本計画」基本構想を実現するための具体的な施策の基本方向を分野別に示し、個々の事業・施策の位置付けを体系的に明らかにします。

「実施計画」基本計画を踏まえ、具体的な事業や施策の体系を明らかにします。



精華町第4次総合計画の目標年次：平成24年（2012年）

2. まちづくりの視点

生きがいや真の豊かさが求められるこれからの成熟社会においては、住民の主体的なまちづくりの展開が重要であり、本町では、今後、「住民主体」を基本として、まちづくりを進めていきます。

人、自然、科学を結ぶ 学研都市精華町



精華町長

飯田利秋

時代は21世紀を迎え、権限委譲などの地方分権の進展をはじめ、少子高齢化の進行による人口構造の転換など、町行政を取り巻く社会経済情勢が大きく変化しています。

本町といたしましては、21世紀初頭の新しい時代を展望したなかで、今後10年間（平成24年度まで）のまちづくりの指針となる第4次の精華町総合計画（以下「総合計画」という。）を策定しました。

今回の総合計画では、住民が自らの地域を考え、まちづくりの主体者となる「『住民が主体』のまちづくり」への転換を図っていくことを基本理念として掲げています。

今後は、この基本理念に基づいて、まちの将来像「人、自然、科学を結ぶ 学研都市精華町」の実現に向けて、まい進していく所存であります。

最後になりましたが、第4次総合計画の策定にあたり、多大なご尽力を賜りました精華町議会及び精華町総合計画審議会をはじめ、貴重なご意見・ご提言を賜りました皆様方に対しまして、心から厚くお礼申し上げます。

平成14年12月

3. まちの将来像

本町がめざす将来像を表すキャッチフレーズとして、「まちの将来像」を次のように定め、これを今後のまちづくりの目標とします。

「人、自然、科学を結ぶ
学研都市精華町」

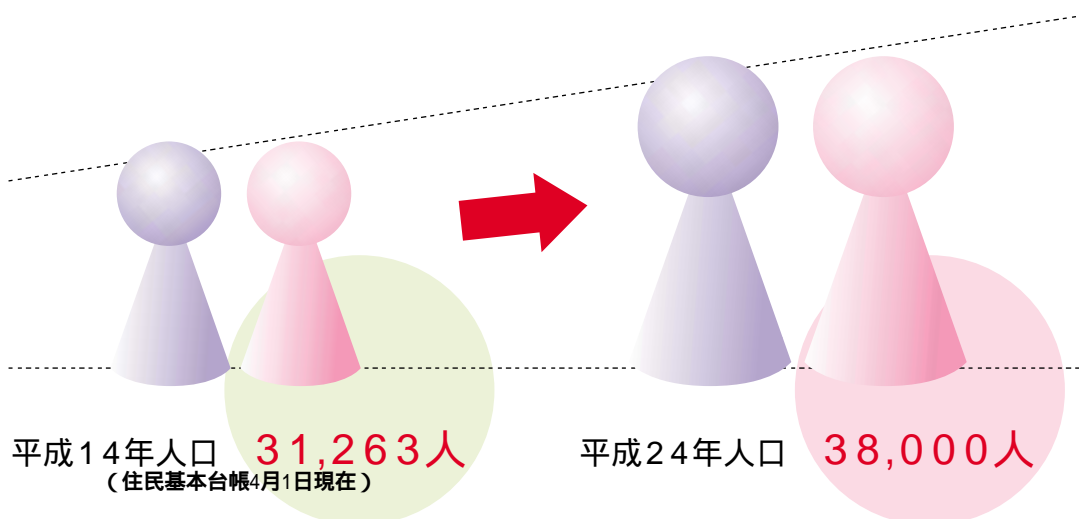


将来人口

着実な人口定着と交流人口の増加による活力の発揮

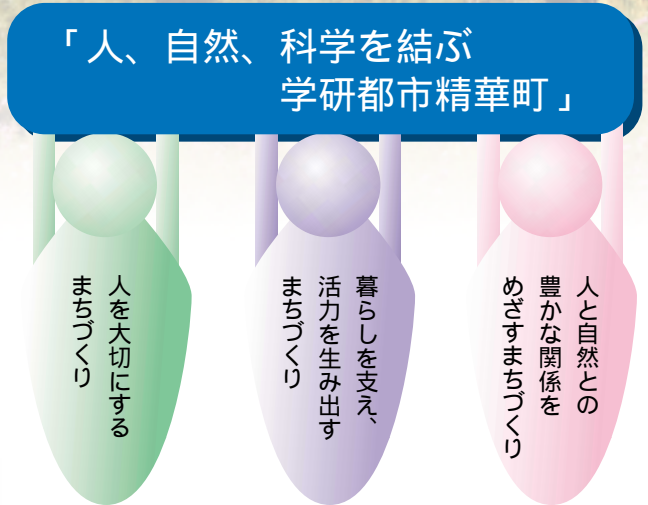
平成14年現在の総人口は31,263人ですが、学研都市の成熟に伴い、今後はさらに人口が増えて、目標年次である平成24年の将来人口は38,000人と想定しています。

また、まちのにぎわいと活力を高めるために、学研都市を最大限に生かして交流人口の増加を図り、多くの人々が精華町のファンとなってもらえるようにしていきます。



4. まちづくりの基本方向

まちの将来像を実現していくための基本的な考え方として、次の3つを柱とし、まちづくりの基本方向を示します。



人を大切にするまちづくり

「まちづくりは人づくりから」という基本を大切にし、心豊かな人を育むとともに、誰もが安心して暮らし、活動できるまちづくりを進めます。

暮らしを支え、活力を生み出すまちづくり

誰もが生きいきと安心して働くことのできる環境を作り出すとともに、活発な交流活動を通じて、地域の活力を生み出すまちづくりを進めます。

人と自然との豊かな関係をめざすまちづくり

地球環境問題の解決に対して、一人ひとりが積極的に取り組むとともに、持続可能な発展による快適な生活空間の形成をはかり、人と自然との豊かな関係をめざすまちづくりを進めます。

5. 地域活動の考え方

安全・安心のまちづくりを進めていくための基本となる基礎的な圏域として、徒歩圏での活動が容易な小学校区をコミュニティ圏域と設定し、交流と連携が生み出せる環境の充実と住民活動の支援を図ります。

また、さらに身近なまちづくりの単位としては、自治会（区）を基礎にした活動があり、まちづくり協議会などの地域での取り組みをはじめ、状況に応じた地域活動の展開を積極的に支援していきます。

コミュニティ圏域図

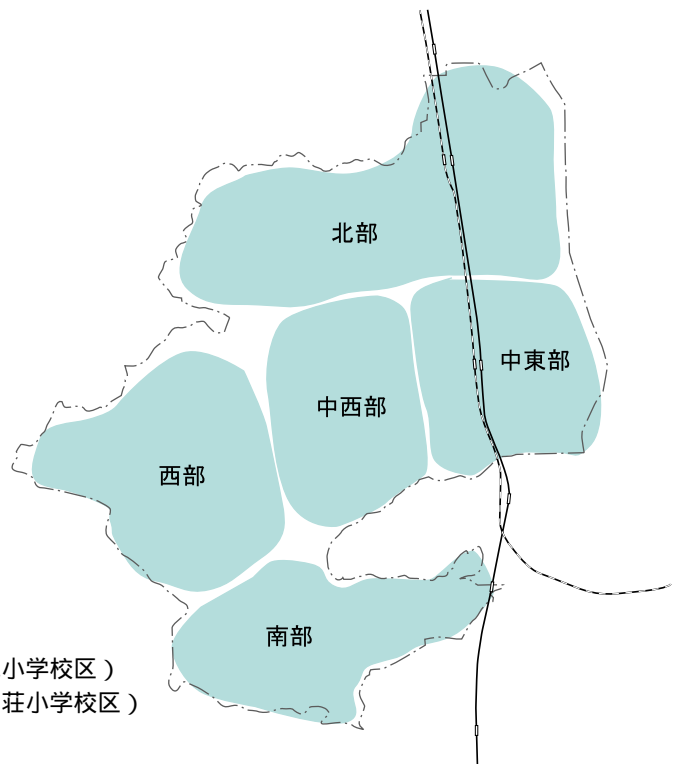
北部地域（精北小学校区）

中東部地域（川西小学校区）

中西部地域（精華台小学校区）

西部地域（東光小学校区）

南部地域（山田荘小学校区）



6. 新しいまちの土地利用

多様性を保ちながらも、町全体で統一感のある魅力的な地域空間を形成していくために、4つのゾーンを設定し、ゾーン別に土地利用の基本方向を示します。

森と里山のゾーン

“豊かな里山空間の形成”

森林の保全と育成を基調としながら、人と自然の共生できる里山空間として形成を図ります。また、町域の6分の1を占める自衛隊用地の有効な活用を図り、貴重な森林の緑を保全し、後世に伝えていきます。

水辺のゾーン

“木津川を軸とした親水空間の形成”

木津川の自然環境を保全することを基調として、水に親しめる空間の機能にも着目した水辺空間の形成を図ります。

まちのゾーン

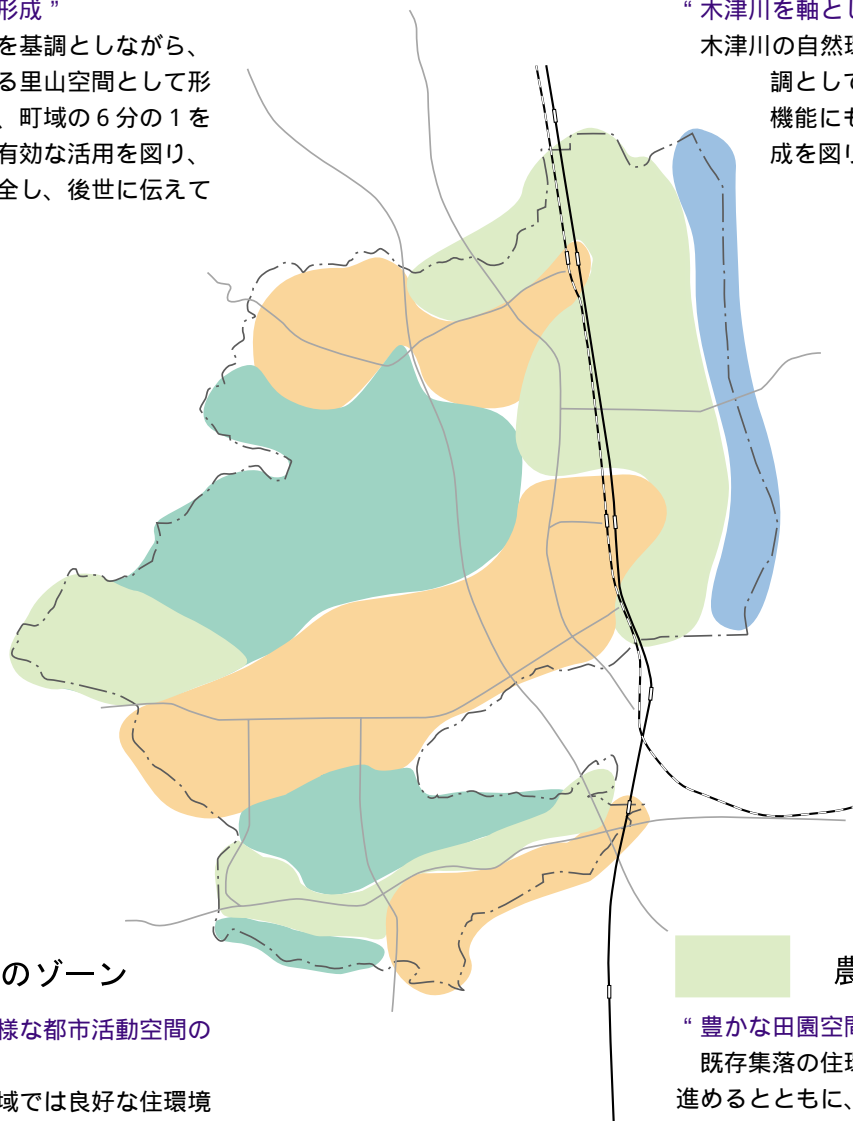
“良好な住環境と多様な都市活動空間の形成”

学研都市の住宅区域では良好な住環境を維持し、文化学術研究などの施設区域では研究開発や新産業創出機能を強化します。既成市街地では、住環境の維持・改善と、人々の多様な都市活動ができる地域として、バリアフリーを基本とした空間形成を図ります。

農と里のゾーン

“豊かな田園空間の形成”

既存集落の住環境と営農空間の整備を進めるとともに、貴重な田園風景の残る空間として、また市民農園や観光農園など自然とのふれあいができる貴重な空間としての形成を図ります。また、煤谷川や山田川などの河川やため池は、親水空間として住民が憩い、地域づくりに生かせる環境として位置付け、積極的な活用を図ります。



土地利用区分図

7. 都市機能の集積と交流・連携の促進

本町の都市機能の集積と交流・連携を、拠点や軸で明らかにすることによって、メリハリのある個性的なまちづくりを展開するとともに、効率的な施策の展開を図ります。

都市拠点

● まちの拠点

役場庁舎や図書館、病院、商業・業務施設などが集積する「祝園駅周辺」を位置付け、町の中心機能を担う拠点として機能の充実をめざすとともに、学研都市への玄関口として、その役割の強化を図ります。

● 学研の拠点

学研都市の中核施設であるけいはんなプラザ周辺を位置付け、学術研究や文化を発信し、人や情報の交流が生まれる機能を担うとともに、研究成果から新産業を生み出す拠点として、学研都市の機能発揮を図ります。

● 地域の拠点 (北部・南部の拠点)

交通結節点である狛田駅周辺を「北部拠点」、山田川駅周辺を「南部拠点」と位置付け、北部地域・南部地域の日常的な商業機能と交流機能を担う拠点にふさわしい環境整備を図ります。

都市軸

都市シンボル軸 (南北軸、東西軸)

本町の骨格となる軸として交通基盤の充実を図り、交流・連携機能を強化します。特に、学研都市間の連携を強化するために、「山手幹線」の延伸や「精華大通り線」の延伸について、早期の整備促進を図ります。

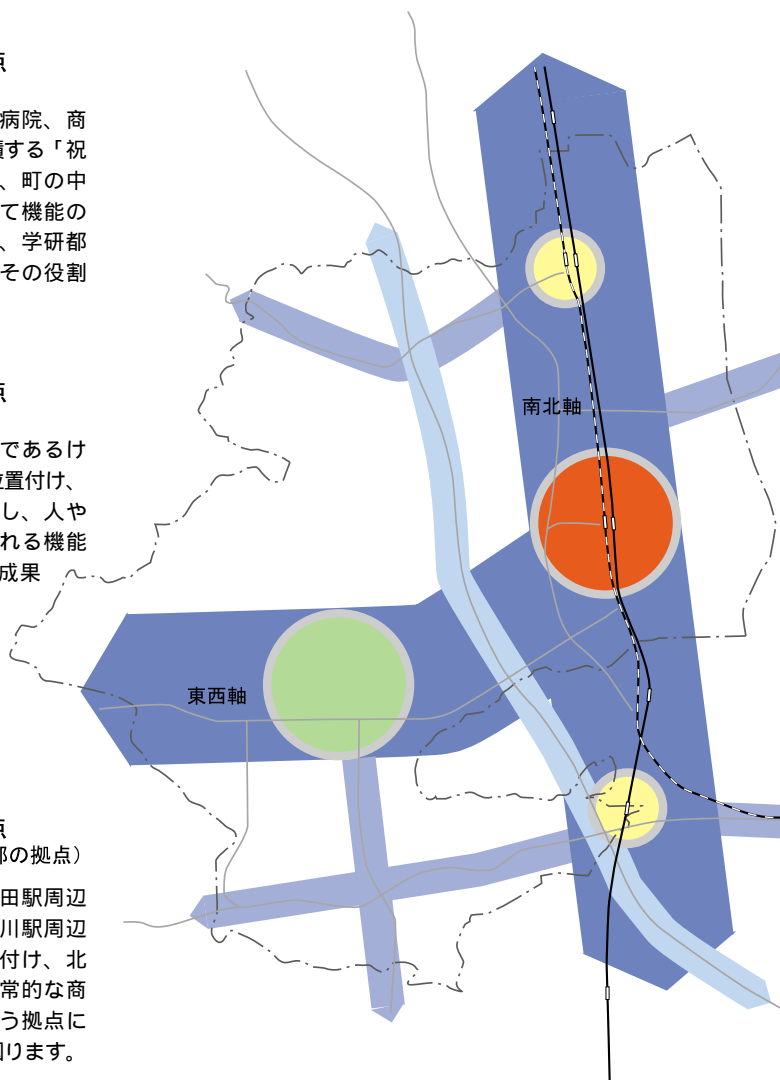
また、沿道には多様な都市機能が集積することによって、軸に沿った交流と連携のにぎわいを生み出し、町の骨格となるシンボリックな空間をめざすとともに、その景観形成を図ります。

広域交流連携軸

京奈和自動車道を位置付け、京都市や奈良市など府県を越えた広域の交流・連携強化を図ります。

地域間交流連携軸

国道163号、奈良精華線、枚方山城線、(仮称)南田辺大通り線をそれぞれ位置付け、交通基盤の充実を図って、近隣市町村間の交流と連携強化を図ります。



都市機能の集積と交流・連携の概念図

<公共交通の充実>

都市機能の集積と交流・連携を強化する手段として、公共交通の充実を図ります。

- ・ 京阪奈新線の整備促進
- ・ 新しい交通システムを利用した移動手段の検討
- ・ JR学研都市線の複線化や増便に関する働きかけ
- ・ 町内や近隣市町村、奈良県側などとの公共交通ネットワークの整備促進
- ・ 町内での公共交通体系の確立
- ・ 高度道路交通システム (ITS) の実用化実験の促進 など

8 まちづくりの実現に向けて

この基本構想を実現していくために、次の3つのまちづくりの視点から、その目標と具体的な展開方を示し、施策実現に向けた取り組みを位置付けます。

住民主体のまちづくり

目標：住民主体・行政支援のまちづくりシステムをつくり、本格的な住民主体のまちづくりの実現を図ります。

住民が活動しやすい環境の整備を進めるとともに、住民側も自己責任の原則に立ち、「一人がみんなのために」という考え方が尊重される社会の実現をめざします。

まず取り組むことは

住民・行政・専門家などからなる検討組織を設置し、住民主体のまちづくりに関する具体的展開について、調査・検討を進めます。

具体的な展開方策・・・

- ・「精華町まちづくり条例」の充実（自治会活動の支援、NPOなどの市民社会活動の支援）
- ・住民のまちづくり活動の支援（基金の創設、学習機会の提供など）
- ・広く住民や事業者などの意見を求めるパブリックコメントの導入
- ・計画づくりの工夫（各種行政計画の策定や評価における住民参加機会の確保、住民にわかりやすい目標設定など）
- ・身近な公共施設の維持管理などにおけるNPOなどの運営参加 など

学研都市を活かしたまちづくり

目標：学研都市の研究開発成果を活かして、先進的な住民生活が体験できるシステムをつくり、「学研都市精華町」ならではの魅力を発信します。

学研都市に立地した研究機関などの集積を活かして、新産業の創出や支援産業などの立地を促進します。

まず取り組むことは

住民や研究者、企業などのニーズ把握を行うための調査・検討を進めます。

具体的な展開方策・・・

- ・学研都市ならではのモデル的な生活に関する社会的実証実験の参加（情報、環境、福祉、教育、交通など）
- ・研究開発や産業の振興などに関する積極的支援
- ・研究開発重視型産業の立地環境整備 など

広域連携によるまちづくり

目標：近隣の市町村と連携して、共通する多様な広域的課題の解決に取り組みます。

社会構造の変革に対応できる市町村連携の枠組みも視野に入れながら、総合計画に対応した、質の高い効果的な行財政運営をめざします。

住民間での広域的な連携活動についても積極的な支援を図ります。

まず取り組むことは

目的に応じた住民や関係団体・機関などによる検討組織を設置し、その具体的方策や事業推進を行うための調査・検討を進めます。

具体的な展開方策・・・

- ・学研都市の建設の推進と活用
- ・社会構造の変革に対応した質の高い効果的な行財政運営
- ・住民間の広域連携活動の支援と公共施設の相互利用
- ・国際標準化機構(ISO)の環境マネジメントシステム(14000シリーズ)認証取得などの新たな課題への対応
- ・職員の能力開発 など



精 華 町

〒619-0285 京都府相楽郡精華町南稲八妻北尻70

TEL. 0774-94-2004 FAX. 0774-93-2233

URL <http://www.town.seika.kyoto.jp>

— 平成14年12月発行 —